

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	22059
課題名	流産後の病理検体を用いたヒト肝発生メカニズムの検討
研究期間	西暦 2022 年 12 月 23 日（実施許可日） ～ 2024 年 3 月 31 日
研究の対象	旭川医科大学病院で 2001 年 4 月から 2020 年 4 月の間に流産で病理組織学的検査が行われた方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：年齢・性別・既往歴・臨床経過・採血結果・画像所見などの情報、等） <input checked="" type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：子宮内容物等） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	旭川医科大学 学長 西川 祐司
外部への試料・情報提供	<input type="checkbox"/> 自施設のみで利用 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究グループ内（提供先：東京大学医科学研究所）（提供方法：病理組織未染パラフィン切片および標本番号と週齢に関する情報の送付） <input type="checkbox"/> その他（提供先： ）（提供方法： ） <input type="checkbox"/> 第三者への提供予定日（提供開始日 年 月 日）
研究組織	研究代表機関：旭川医科大学 研究代表者 学長 西川祐司 共同研究機関：東京大学医科学研究所再生医学分野 准教授 谷水 直樹
研究の意義、目的	肝臓の発生メカニズムに関してはまだ不明の点が多く残されています。これを解明することは、肝臓の機能を考える上でも、肝疾患の病態を理解する上でも重要です。本研究の目的は、これまで齧歯類のモデルを用いて明らかになってきた知見がヒトにも同様にあてはまるかどうかを検討することです。
研究の方法	2001 年 4 月から 2020 年 4 月の間に旭川医科大学病院で流産後の子宮内容物の検査が行われた方の病理検体（標本庫に保存されているパラフィンプロック）から作製した組織切片を使用します。東京大学医科学研究所に未染組織切片を送付し、各種抗体で免疫組織化学を行い、さまざまな週齢における肝臓の細胞分化に関連する蛋白質の発現を調べます。
その他	
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

旭川医科大学病理学講座腫瘍病理分野

後藤正憲

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

電話 0166-68-2372 Fax 0166-68-2379

研究責任者：

旭川医科大学・学長・西川祐司